

2. 猫に快適な室内環境を用意しよう

交通事故や感染症などのトラブルを避けるためにも、猫は室内で飼いましょう。ただし、ただ部屋の中に入れておけば良い、という訳ではありません。猫の欲求（ニーズ）を満たすような生活環境を整える必要があります。猫にとって快適な室内環境を用意しましょう。



■ 安全対策

脱走されないように外へのアクセスを管理しましょう。窓や扉を開けっぱなしにしないことはもちろん、網戸や扉を上手に開けてしまう猫も多いのでロックをかける、手をかけられないようにするなどの工夫が必要です。室内では、猫が口にすると危険なものを片付けましょう。電気コードは束ねて隠しておくこと。猫が口にすると危険な観葉植物もあります。人間用の薬も食べたら大変なので片付けておきましょう。

また意外なところでは、お風呂場に注意。猫はバスタブにお湯がはってあるとゆらゆら動く水面に興味を持って見ているうちに、落ちて溺れてしまうこともあるため蓋をしましょう。

① 外を眺める場所

室内飼いのデメリットは「退屈」。そこで窓の外を見るという刺激を与えましょう。窓辺に猫に心地よいスペースを作ってやれば、暖かな日だまりでお昼寝も出来るでしょう。ただし、縄張り意識の強い猫は、外に猫を見つけると不安を覚えて室内でマーキングをすることもあります。そういう場合は、逆に外が見えないように工夫する必要があります。

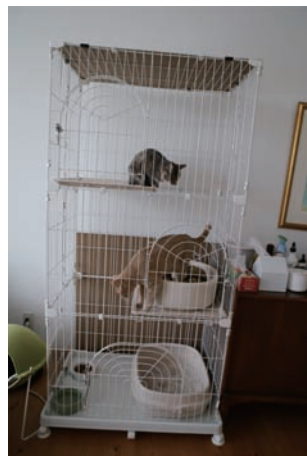


2 上下運動

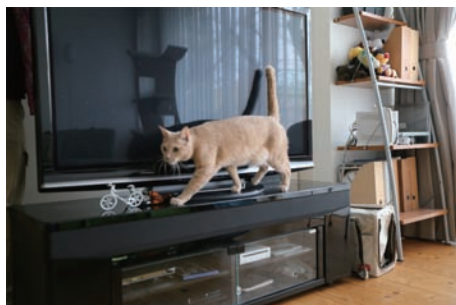
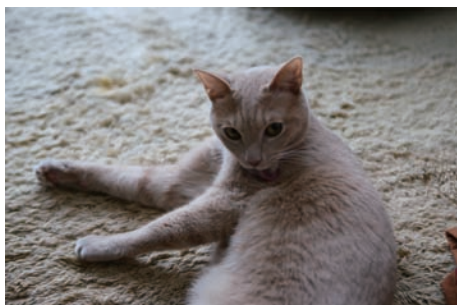


猫は立体空間の移動や、複雑に入り組んだスペースの移動を好みます。部屋の中の家具の配置を考えて、猫が上下運動できるよう工夫してみましょう。あまり背の高い家具がない家では、猫用に市販されているキャットタワーを設置しましょう。上下運動ができると、猫は自分でエネルギーを発散できます。多くの若い猫は非常に活発で、深夜、部屋の中で運動会が始まったり、過剰にじゃれついてきたりしますが、上下運動が可能な室内環境をしっかり整えれば、問題行動の予防にもなります。

3 ケージ



子猫を迎えるならケージをうまく利用しましょう。閉じ込めるとかわいそうと思う人もいますが、子猫の頃から習慣づけて上手に使えると大丈夫です。ただし入れっぱなしは厳禁。ケージを使うならまめに出し入れしましょう。ケージに慣れていれば、災害時や入院時にも役に立ちます。



4 くつろげる場所

柔らかな布の上、暖かな場所を好みます。フローリングの床だけではなく、ラグやホットカーペット、こたつ、ソファ、座布団など猫も人もリラックスできる空間があるといいでしょう。

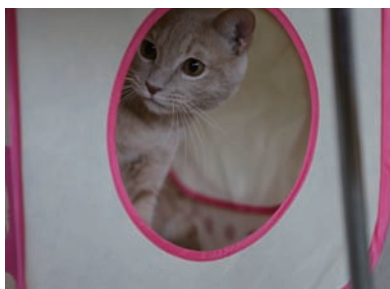
5 入り組んだ動き回れる空間

猫は広くて見晴らしがいい場所よりも、隠れ場所が多い、入り組んだ空間を好む習性があります。シンプルな何も無い部屋もいいですが、いろいろなものが置いてあり、人間にとって暮らしやすい部屋が猫にも快適でしょう。

6 爪とぎ

猫は爪を研いで古い爪をはがし、新しい爪に再生させます。部屋に適切な爪とぎがないと家具や柱などで爪を研ぐので、専用のものを用意しましょう。

7 隠れ場所



猫は本来臆病な動物です。急な来客や、何かに驚いた時に猫が逃げ込めるスペースを用意しましょう。ダンボールやバスケット、ベッドと壁の隙間など何でも構いませんが、全身がすっぽり隠れる、潜り込める場所があればさらによいでしょう。そうした安心できる場所がないと、猫は神経質になりやすく、飼い主に懐きづらくなったり、恐怖による攻撃を誘発したり、排泄の失敗につながることもあります。こうした隠れ場所は快適な寝場所にもなるはずです。

8 トイレ

トイレは猫の数プラス1が基本です。
(トイレについては46ページを参照)

